

卒業論文
「観光まちづくり」の現状と課題
——門司港レトロの事例から——

平成 23 年度入学
九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野
平成 27 年 1 月 提出

要約

本論文の目的は、門司港レトロの観光まちづくりの実態を調査し、「観光まちづくり」に関わる人々の意識から、「観光まちづくり」という活動の実態や課題について明らかにすることである。

第1章では、「観光まちづくり」が誕生した経緯について、時代背景を踏まえながら整理している。そして、「観光まちづくり」という言葉が、行政施策の中で用いられたことから誕生したことを指摘し、「観光まちづくり」の特徴について言及している。

第2章では、本論文の調査対象地である門司港レトロについて、選定理由や観光まちづくりの経緯、人口や観光客数について説明している。そして、本論文でも詳しく取り上げる、門司港レトロ倶楽部という門司港レトロのまちづくり団体の活動内容や加入団体、設立の経緯について述べている。

第3章では、2008年に策定された「門司港レトロ観光まちづくりプラン」について言及している。プランの内容だけではなく、策定過程にも注目し、門司港レトロ長期計画検討委員会の議事録についても触れている。そして、「門司港レトロ観光まちづくりプラン」や「観光まちづくり」の特徴をつかむために、北海道小樽市小樽の「小樽市観光基本計画」との比較を行った。

第4章では、門司港レトロの観光まちづくりの実際を明らかにするために、行政・門司港レトロ倶楽部事務局・まちづくり団体・地域住民の方々、計9名に聞き取り調査を行い、その内容をまとめている。聞き取り調査では、主に、門司港レトロ倶楽部への評価、門司港レトロ倶楽部設立のメリットや課題、観光客に対する意識、理想の門司港について尋ねた。

第5章では、聞き取り調査から得られた情報を整理し、門司港レトロ倶楽部の特徴、行政と民間の意識のズレや門司港レトロの観光まちづくりの課題について検討している。

第6章では、先行研究や聞き取り調査の内容から、「観光まちづくり」の課題や「観光まちづくり」の実態について考察し、本論文を締めくくっている。

目次

はじめに	1
1 「観光まちづくり」論への期待	2
1.1 「観光まちづくり」の誕生	2
1.2 行政施策と「観光まちづくり」	3
1.3 「観光まちづくり」の特徴	4
2 調査対象地概要	6
2.1 門司港レトロ選定の理由	6
2.2 門司港レトロ誕生の経緯	6
2.3 門司港レトロの現状	7
2.4 観光まちづくりを担う門司港レトロ倶楽部	8
3 行政施策からみる「観光まちづくり」	11
3.1 「門司港レトロ観光まちづくりプラン」概要	11
3.2 「小樽市観光基本計画」との比較	16
3.2.1 小樽市選定の理由	16
3.2.2 「小樽市観光基本計画」概要	16
3.3 2つのプランを比較して	18
4 「門司港レトロ」実態調査の概要	20
4.1 調査目的	20
4.2 調査概要	20
4.3 調査対象者概要	22
4.4 聞き取り調査内容	23
5 門司港レトロの観光まちづくり	44
5.1 まちづくり団体としての門司港レトロ倶楽部	44
5.2 観光客と住民の交流	45
5.3 民間と行政の意識のズレ	46
5.4 門司港レトロの観光まちづくりの課題	47
6 「観光まちづくり」の実態	49
おわりに	51

[注]	52
[参考文献]	53
[あとがき]	54